

普及活動情勢報告（令和4年6月分）

中央東農業振興センター 嶺北農業改良普及所

今年の農業振興の方向性を話し合いました ～令和4年度第1回嶺北地区農業改良普及推進協議会～



活発な意見が出されました

6月22日に、嶺北農業改良普及所会議室で、令和4年度第1回嶺北地区農業改良普及推進協議会を開催し、農家代表委員4人、関係機関8人が参加しました。

協議会では、本年度の普及所の活動を普及指導計画書等で説明し、また「中山間地農業ルネッサンス事業に係る地域別農業振興計画」、「人・農地関連施策の見直し」について情報提供を行いました。続いて意見交換を行い、委員から「肥料価格高騰への対応を」、「移住による新規就農には住宅が必要」等多数の意見が出されました。普及所では、協議会でいただいたご意見をふまえ、地域の農業振興に取り組んでいきます。

点検、さらなる改善へ！ ～GAP環境点検～



取組内容を確認中！

6月20、23日、JA高知県れいほく園芸部はGAP環境点検を開催し、部会役員、JA、町村職員、普及所職員合わせて31人が参加しました。

全生産者90名のほ場を巡回し、高知県GAP第三者確認制度の点検項目に基づき、各ほ場の状況を確認しました。園芸部での高知県版GAPの取組も5年目となり、ほ場・調製場所の整理整頓や農作業安全の取組など、生産者自らがGAPを意識した営農を行っていました。一部で、緊急連絡先の掲示をしていない等の指摘事項もあったため、改善を促し、後日実施状況を確認することになりました。今後も普及所は、JA園芸部と連携してよりよい農業の実践に向けて支援していきます。

尻腐れ果の減少と収量向上に向けて ～土佐甘とう部会現地検討会～



甘とうの株を見ながら
整枝方法を確認

6月8日、JA高知県れいほく園芸部土佐甘とう部会は現地検討会を開催し、部会員17名が参加しました。

JAからは、生育や尻腐れ果の状況について説明がありました。普及所からは、今後増加が予想される尻腐れ果対策と、梅雨時期に向けた病害対策について説明しました。

尻腐れ果対策の一つとして周知した着果負担の軽減について生産者の関心が高く、その中でも整枝方法について「どの側枝を切ったらいいか」など多くの質問が出されました。

今後も普及所は収量の向上に向けて、部会、JAと連携した取組を続けていきます。

ユズ生産の維持・拡大に向けて～第1回嶺北地域果樹(ユズ)産地協議会～



協議会で活発な意見交換

6月16日、生産者代表、JA、町等の関係機関11人が参加し、果樹産地協議会が開催されました。

会では、嶺北産ユズの現状と課題を共有するとともに、本年度の活動計画について協議しました。

参加者からは「新改植が増加する中、栽培技術習得に向けた個別巡回、研修会を開催してほしい」、「収穫作業時の労働力確保が容易でなく、生産者の負担になってきている。機器導入も含め省力化、労働力確保の取組が必須」など、活発な意見が出されました。

今後も普及所は、関係機関と連携して、新規栽培者への指導や省力機器の導入体制の検討、輸出に向けた取組などを推進していきます。

果たして今後の生育はいかに？ ～大豊学園のプランター苗栽培支援～



普及職員が植え方を説明中

6月15日、大豊学園は学校敷地内に設置したプランターで田植え体験学習を行い、小学5年生、教員、大豊町地域学校活動推進員など16人が参加しました。この取組は学校から離れたほ場で田植え体験をした子供たちが、バケツ苗で日々の生育も観察したい！との発案で計画されました。

普及所は当日、苗の植え付け方やその後の水管理について指導しました。

子供たちは「基本は3～5本で3株植えと言われたけど本数や株数を変えたらどうなる？」と自主的に多様な植え方にチャレンジしていました。

普及所は今後も食育活動の一環として関係機関と連携し、農業の大切さを伝えていきます。